

イスラエルの回復のために祈りましょう



イスラエルのロシア系ユダヤ人 人口：675,000人

▶イスラエルのテルアビブ郊外にある国際空港に、ロシアから来たユダヤ人でいっぱいの飛行機が到着する。これは、1990年代後半の日常的な光景である。共産主義崩壊後、約束の地に戻る望みがほとんどないまま、ロシア国内に閉じ込められていたユダヤ人が、次から次へとイスラエルに帰還しているのである。ロシアのユダヤ人は、その宗教とイスラエルへの帰還願望のために、ロシア政府に対して「わたしの民を行かせよ」と叫び続けてきたのである。


▶ロシアのユダヤ人は、神に対して霊的に飢え乾いている。彼らは、無神論主義の下であまりにも長く生活していたために、その多くが自分の宗教と伝統を忘れてしまい、よく「神とは誰か？」と質問する。が、感謝なことに、たくさんの協力機関と教会が共に働いたおかげで、1989年以来、多くの人々が、ロシアで神について聞く機会を与えられている。事実、ロシアからのユダヤ人移民の中に、主イエスへの生命力に満ちた信仰を持つ人があまりにも多いため、イスラエルのラビたちは、戸惑いを隠せないようである。イスラエルに帰還する前に、そうした人を探り出して、ロシアに居残るように働き掛けるラビたちもいる。しかし、そうしたことにもかかわらず、現在、イスラエルには多くのロシア人信仰者が存在し、神を礼拝している。新しいコングレーション(会衆)は、ロシア語圏の彼らに合わせて設立されたものである。実際のところ、イスラエルでは、十人に一人はロシア語を話しているのである！

▶ロシアから来たユダヤ人にとって、イスラエルでの生活は決して楽なものではない。イスラエルの全人口は、450万人にすぎず、70万人近くのロシア帰還者を受け入れるには、たいへんな負担がかかっている。それも、最近の7年間(1990年代後半現在)という極めて短期間のことなので、さらに困難と言える。帰還者に仕事があるのは、まれで、医師や科学者、エンジニアが、街路の清掃人や警備員として働かざるを得ない状況である。主イエスを信じる信仰者にとっては、クリスチャンへの差別もあるので、就職難がいつそう厳しくなるという。イスラエル政府は帰還者に対して、最初の1年間の医療費、生活援助手当を支給しているが、多くのロシア系ユダヤ人には、社会で自立できるまで、それ以上の時間が必要とされている。

▶ロシアからの大量移民に伴って、過度の飲酒や売春、ロシア系マフィアなど、さまざまなマイナス面が浮き彫りになってきた。ロシア系のユダヤ人移民は、こうした問題は真のユダヤ人によるものではなく、ユダヤ人と見せ掛けてロシアからイスラエルに入り込んだ、ロシア人のせいだ、と言う。しかし、これらのイスラエル社会への悪影響は、ロシアからの移民たちがもたらしたものだ、ということで、ロシアのユダヤ人にかなり嫌悪感を持つ人もいる。

▶ロシアからのユダヤ人が、最もよく福音を聞き入れる時期は、イスラエルに帰還してからの1年間である。彼らのために、食料品や衣料品を無料で提供するクリスチャン団体やミニストリーがいくつかある。新しい移民が困難を覚える過渡期に、移民の側に立って彼らに仕える、という姿勢は、しばしば言葉よりも説得力がある。しかし、ロシア系のユダヤ人は、一度イスラエル社会に落ち着くと、霊的な飢え渴きがなくなってしまう

ように思われる。生活に追われて、仕事をするのに精いっぱい、仕事自体が偶像となってしまっているようにも見えるのである。

 **祈りの課題**

☆彼らの絶望や幻滅が追い散らされるように。そして、イスラエル社会において、彼らが自分の役割を見つけることができるように。

☆神への飢え渴きをくじいてしまう、貪欲や物質主義の霊に立ち向かって。

☆無神論主義の共産主義国から、民主主義と信教の自由に入れられた彼らは、アイデンティティーの混乱をよく体験する。それを乗り越えることができるように。

☆多くのロシア系ユダヤ人が影響を受けている、アルコール依存症、マフィアの活動、犯罪行為、売春行為に立ち向かって。

☆彼らがイエシュアを自分のメシアとして知ることができるように。

☆彼らの間で働く働き人がもっと増えるように。

☆彼らの人生にある、主のご計画と召しを成し遂げるために、彼らが立ち上がることができるように。
